

# アカマツ林の保全について

昔はどこにでも見られたアカマツ林では、人々が生活に利用する為に落ち葉掻きや林内に生える常緑樹を伐採していましたが、近年は生活の変化に伴い利用されなくなったことと「マツノザイセンチュウ」の被害により全国的に減少しています。

油山のアカマツ林は県のレッドデータブックに貴重な植物群落として掲載されています。森を育てる会では、放置すれば常緑樹林となっていく林をアカマツ林として保全する為の作業を行っています。

## ◆ 森会の基本的な考え方

テーマ：「いつも元気なアカマツ林」

- ① 1本1本が元気な木であること。
- ② 代々続いていく林であること。
- ③ 会員以外の方への開放。（市民の方への周知を図る）

## ◆ 「アカマツ林保全5ヵ年計画」（2006年11月）

保全方針：「アカマツ単林の方向で保全する」

- ① 常緑樹を伐採する。
- ② 落葉落枝を除去する。
- ③ 利用者の安全に関わる斜面の崩落などが起きないように作業を進める。
- ④ マツ枯れ被害木の処理方法は管理者に提案していく。
- ⑤ 保存落葉樹（観察木）の検討・保護

以上の点を踏まえて作業で出た材の利用、会でできる作業量、安全等を考慮して5ヵ年の作業計画を策定した。（計画表については世話役保存）

## ◆ 「アカマツ林保全5ヵ年計画」の見直し（2010年5月）

「アカマツ林保全5ヵ年計画」に基づき作業を進めてきたが松枯れの進行、侵入木の成長など林内の状況が変化した為、これまでの作業振り返りを行い今後の作業方針を策定した。

- ① 小木及び萌芽枝は除伐する。
- ② 実生のアカマツを保護・育成するためにシダ、雑草を除伐する。
- ③ 観察木を再設定する。（保全エリアの雑木及び萌芽枝、シダの皆伐）
- ④ 残す木として指定した観察木以外は除伐する。
- ⑤ 遊歩道と階段の整備
- ⑥ 落ち葉掻き（下層植生の保全目標の設定とそれに伴う作業の検討）

\* 振り返りをたたき台とし、これから作業を検証し保全作業を進めていきます。